

# 佑 啓

社会福祉法人 佑啓会	ふる里学会
〒290-02	市原市今富1110-1
☎0436	-36-7611
発行者	里見吉英
編集者	三股金利

## 不思議な御縁 知的障害者と財産管理

白石 哲也

私は、施設長の里見吉英氏、監事の鈴木竹男氏と木更津高校の同級生です。当時席順があいいうえ順であつたため、里見氏、私、鈴木氏が前後に座つていました。大学は、皆別々の大学に進みました。が、あまり交際しなかつたので、その後再会しますと里見氏は福祉の仕事、鈴木氏は公認会計士を、私は弁護士をしているという事になりました。私達、あまり出来の良い高校生ではありませんでしたので、授業をエスケープしたり、禁止されたところへ寄り道したりしていたのに、今それぞれが自分の仕事を一人前らしくしているのが不思議な感じがします。(里見氏や鈴木氏には申し訳ないですが。)

数年前、里見氏から社会福祉法人を設立し知的障害者の施設をつくりたいので、設立準備委員になつてくれとお話がありました。私は、これまで福祉関係の仕事はしたことがありませんし全く分かりませんので、里見氏は「弁護士としてのアドバイスをしてください。」「とのことであり、お引き受けさせて頂きました。

民法に、行為無能力者という制度があります。これは、社会生活での判断が十分にできない方を保護する制度です。行為無能力者の制度のうち、知的障害者には禁治産者、準禁治産者のいずれかの制度が使えます。

まず、禁治産者ですが、これは「自分の行為の結果について合理的判断ができない方」について本人、配偶者、四親等以内の親族等の申し立てにより、家庭裁判所が医師等に鑑定させ、その結果に基づき禁治産宣言をします。宣言を受ける人後見人が選任され、禁治産者として戸籍に記載されます。禁治産者が不動産等の財産を処分しても、後見人はこれを取り戻すことができます。一見、戸籍に記載されることは不名誉にみえますが、むしろ禁治産者の財産を守る事ができる制度です。

次に準禁治産者ですが、これは「自分の行為の結果について、合理的判断が不完全にしかできない方」について禁治産宣言と同様の手続きで宣告されます。宣告を受けると補佐人が選任され、一定の範囲を超える財産の処分には補佐人の同意が必要になり、もし同意なしに処分するとこれを取り消しこれを取り戻すことができます。紙面の都合で細かな点までは説明できませんが、知的障害者を持つ方のご両親にも高齢化が進み、相続問題なども発生すると思われま

す。その場合に、知的障害者の権利を守るために、右のような制度の活用も必要になるかもしれません。詳しくはこちらについて、施設を通じてご相談ください。

「人の縁」というものには不思議です。今後も「縁」を大切に、微力ながら知的障害者の福祉に御協力できればと思っております。

佑啓会理事



## ふ れ あ い

松田 洋次

この度は、ふる里学会の生活能力訓練事業「ふれあいホーム」に参加させて頂きまして、有難うございました。一週間近くも家族から離れて過ごしたのは初めてでした。さぞ、本人は困惑したことでしょう。今後も、まず親がいるいると研鑽していき、本人のためになることを、どうして与えてやる必要があるかと考えています。この一週間の経験で、先生方からの指導観察レポートを拝見し、家庭内での接し方に気を付けていかねばと、改めて考えさせられています。

体験からの感想を述べさせて頂きますと、施設(設備等)は整えられており、(丁度作業棟が完成した時期)益々、屋内外の各作業の内容が充実していくものと期待しています。食事は、朝・昼・晩と、三食一緒においしくとらせて頂きました。質、量とも良く、汁器類もきれいで満足でした。寮生の食欲には驚かされました。吉彦は食事を残したそうですが、多分精神的な不安からくるものと思

います。どこでも誰とでも食べれるようになれば良いのですが、各人の部屋もきれいになっており、廊下などにもゴミがなく、心地よく日々の掃除が行き届いていると思

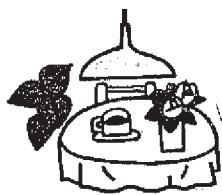
いました。夜のミーティングに参加させて頂き、当日は、今日の仕事の反省を話題に出しておられました。このことは身近なよいテーマだと思えます。少し時間をかけてでも、各人の発言がもっとあれば、(問答対話方式で)寮生に

話させる時間へと、誘導していいものかと感じております。各生毎の日の作業ですが、各人それぞれ個性が強く、個々への指導の程度をどのようにしておられるのか、又、成長の程度(過程)の把握など、またの機会にお教え頂ければと思います。

二年目の施策を、いろいろ実行中と伺いました。指導者の方々の若さと熱意を感じております。故、チャレンジされているところを、ふらりと拝見に伺わせて頂ければと思います。

子供のために機会をみて、是非再度生活訓練を申込み、お願いしたいと思えます。その場合、一週間コースではなく短いコースで、例えば一泊二日コース、二泊三日コースとか、あるインターバルで回数を重ねること、日数を伸ばしていく方が良いのではないかと

思います。少しづつ、ハードルを高めて訓練していく方向でいかかなものではないでしょうか。今回の体験は、親子ともに満足しています。



療育事業委員会より  
昨年度の地域開放事業の実績は次の通りです。

- ・緊急一時保護事業  
延べ日数 八百三十六日  
延べ件数 九十五ケース
- ・巡回療育相談等事業  
三十三ケース
- ・生活能力訓練事業  
十九ケース

開所一年目ということもあり、十分なサービスを提供することができず、御家族や関係機関の方々には、多少なりの不満を抱かれたのではないでしょう。これらの事業を通して、在宅で生活している方が、様々な壁にぶつかりながらも、同じ悩みを持つ仲間と行政や我々施設とタイアップしてのりこえて行こうとする姿を肌で感じる事ができました。

患者が自分の意思で数ある病院の中から気に入った所を選べるように利用者やその家族の希望がかなうような福祉サービスが求められているような気がしています。

今後も、施設のもつ機能を十二分に発揮し在宅障害者の方々の一助となれたいと思います。

最後に、これらの事業は入所している寮生とその家族の理解と協力のもとになされていることを付け加えさせていただきます。

指導主任 飯田 俊男

六月十日、私は千葉県からの招待を受け、船の旅に参加しました。千葉中央埠頭より、港務視察船「若潮」に乗船し、洋上体験と観光を行なうというものです。当日は朝から曇って、雨の予感が全体を覆っていました。一時は雨を覚悟していましたが、次第に明るくなり、学舎を出発する頃には、雲の間から晴れ間が覗く様になりました。

慌ただしく朝食を済ませると、服を着替えて、予定通り学舎を出発しました。道中は、かなり混雑していましたが、無事埠頭に到着しました。案内されるまま船に乗り込み、デッキから船室に降り、各自思い思いの席に座ると、定刻通り沖に向かって出発しました。

施設長はじめ学舎あげての行事となった、スポーツ大会(ゆうあいピック)千葉県大会は、去る五月二十七日、天台スポーツセンターで開催されました。当日は、生憎の悪天候で、予定していた寮生全員の応援は中止となりましたが、選手十三名は、家族の大声援に応え、見事な走りを見せつけられました。

寒明けの二十四日から手袋をはめての練習、晴雨に拘らず、毎日作業終了後、四時四十分から五時三十分まで陸上経験のある職員がメニユーにそって指導しました。場所は学舎内・東関道側道・海保公園を中心、大会間近には、袖ヶ浦陸上競技場・ジェフ市原のホームである臨海競技場で、本番さながらに走り込みました。

ここまで練習したのだからと、自負していたのですが、「井の中の蛙大海を知らず」、千葉県となるとレベルが高いなあと、思い知らされたのが本場のところ。特にリレーについては練習不足が目立ち、好位置につけていたにもかかわらず、バトンのミスで、大きく遅れてしまいました。その後

## あ り げ な い 乗 船 記

沖に出る頃には、皆、2階のサロンの移動したり、自分に一番合ったポジションを捜したりと、自由に動き回っています。ようやく席が決まってきたので、爽快なクルージングの始まりです。沖は残念ながら霧が濃く、陸地の建物もぼやけていました。が、係の方の丁寧な解説で、不由を感じることがありませんでした。陸の景色が途切れると、今度は大きな外国のタンカーが目の前に現れました。船の速度は思いの外速く、タンカーの間を縫う様に走り抜けるのが、凄く、凄く、驚きの声が上がります。大きな波が来て船が大きく揺れる度、あちこちで「オーッ」という歓声が上がります。席に座ってずっと海を眺めている人、気持ち良さそう

にシートに身を沈めて眠っている人、隣の人と楽しいおしゃべりをしている人等、皆が色々な顔を見せている。一時間半の貴重な体験が終わり、下船するポイントパークに到着。芝生の上でピクニック気分になりながらお弁当を食べました。その後、皆でポイントタワーを見学し、今度は空からの景色を堪能しました。

こうして私達の貴重で楽しい一日が終わりました。皆がそれぞれの中にある思い出を残すことが出来た。最後に、千葉県の皆様のご協力、よろしくお願ひ致します。

事務委員 宮嶋 国幸

ゆうあいピック

千葉県大会開催さる

★結果報告

スポーツ委員 牧本 光夫

金メダル	二 個
銀メダル	三 個
銅メダル	十九 個

なお、六月十九日にゆうあいピック全国大会(群馬大会)のソフトボール千葉県代表選手選考会が行われ、岡正雄さんが千葉県代表選手に選ばれたことを報告いたします。

今年四月に念願の作業棟が竣工しました。と同時に、作業体制も一新し、また、通所部が開所され通所生の受け入れも始まりました。

新しい作業棟は、実習農地で野菜・果樹栽培を行う農耕科、季節の草花や観葉植物を栽培する園芸科、学舎敷地内山林で椎茸の栽培を行う林産科、主に季節野菜を栽培する農芸科、作業棟内でガラス工芸・陶芸を行う工芸科、通所生を受け入れ、主に手工芸を行う通所部と六つの科・部に分類され、それぞれが第一歩を踏み出しました。

当初は期待と不安が交錯し、正直申し上げまして、作業の場・仕事の場として寮生・通所生を受け入れ、各々のニーズに見合った指導をしていくのかという不安の方が大きいものでした。また、予定通り作業が出来たのかという不安もありました。

しかし、二ヶ月が経過した現在では、寮生さん達も新しい作業に慣れ始め、

## 作業棟が竣工して

指導員 松橋 達也

職員も、手応えをつかみかけております。ナス・ピーマン・キュウリなど野菜の収穫・販売も始まり、春に種を蒔いたベチユニアやサルビアなどの草花も元気に生育しています。また、ガラス製品の販売も始まるなど各科ともに順調な歩みを見せております。

とは言ふものの、やはりまだまだ職員が未熟で、学ばなければならぬことが幾多もある事も事実です。今後、作業職員一丸となってより一層精進し、更なる成長を目指したいと思ひます。駆け出しのふる里学舎の作業を暖かい目で見守って頂けたら幸いです。

六月十一日、朝日生命とジェフ市原のご好意により、去年に続いて二度目のリレー観戦となりました。今年は幸いに天候にも恵まれ、参加寮生・職員一同楽しく観戦することができました。

対戦カードは、ジェフ市原対名古屋グランパスエイト。我等がジェフ市原は健闘むなしく、0対1で負けてしまいましたが、全日本サッカーチームのフルカン監督も観戦に来ており、握手していたり、サインをしていたり、大いに盛り上がりました。

また、今日はリレーだけに限らず、いろいろなスポーツ・イベント等に参加し、寮生達が直接社会と接する機会を、たくさん企画していきなさいと思っておりますので皆様の御協力、よろしくお願ひ致します。

スポーツ委員 平井 晋也

梅雨の合間に夏の到来を予感させる青空、半袖がすがすがしく感じられます。

この季節、だるさと同時に何かワクワクさせるものが、小さい頃からあったのは、私だけでしょうか。

ふる里学舎でも、ナスやキュウリが採れ出し販売の寮生も熱が入り出しそうです。鼻歌ながら花に水をやるY君の頭も陽に照らされて光っています。

若い彼等の将来をふと考えるながら、先日相談にいられた家族と対比してしまいました。

「同床異夢」障害者を抱えるという同じ立場ながら、子供(夢)に対する考え方の違い、厳しい環境にあるのは事実ですが、いつか同じ夢が見られることを願ひ佑啓7号をお届けします。 三股 金利